

第3回保育について語ろうデーのお知らせ

令和元年7月17日(水) 実施しました！



香川大学教育学部 附属幼稚園

参加者：幼稚園教員

坂出市 2名

高松市 5名

善通寺市 1名

多度津町 1名

保育所保育士

高松市 1名

小学校教諭

三木町 1名



共に語りあった方：金子之史先生 片岡元子先生
松井剛太先生

9:15	保育公開
11:30	降園
12:00	昼食会・自己紹介
13:15	協議1 保育について
15:00	協議2 事例検討
16:30	終了



語り合ったことをお知らせします！

【保育公開より ～保育者の発言「どうする？」にどのような願いが込められていたか～】

例年より少し早くセミが鳴き始めた今年。子供たちはセミ取りに夢中です。そんな姿を捉えて、保育者は前日、虫取り網の準備をしていました。

この日もセミの大会に誘われて多くの子供たちがセミを狙っていました。しかし、Aくんはなかなか捕獲できません。Aくんを支えたい保育者は、取り逃がして残念がるAくんに「どうする？」と投げかけました。セミ取りを続けるかどうかを考えさせたくて言ったのか、次はどんな風に捕まえるか考えさせたくて言ったのか、網を改良させたくて言ったのか……。『どうする？』の言葉に込められた保育者の思いと子供の育ちとの関係性について話し合いました。

【4歳児7月中旬 事例より ～片付けって何だろう～】

子供たちの「もっと遊んでいたい」「明日も続きをしたい」という思いに心を傾けることなく、急かして片付けさせてはいませんか？谷口教諭は、保育の中にわずかでも「させるーさせられる」関係の存在を感じると違和感を覚える保育者です。そんな気づきを記した事例をもとに、片付けの意義について語り合いました。

音楽や放送等によって時間を区切り、片付けからクラスの活動へと切り替えさせる保育……。そのような大人にとって効率のよい生活の中で、疑問を感じずにいる現状があるのかもしれません。反対に、次の活動の段取りに苦心する保育者自身のもやもやばかりに目が向いている現状もあるかもしれません。そんな「当たり前」の現状に立ち止まり、考えていきました。

【語ろうデーに参加して感じたこと ～参加者アンケートより～】

- 今まで「当たり前」だと思っていたことに疑問をもち、真剣に職員で話し合いながら「子供のために」よりよく変えようとしていく附属幼稚園の雰囲気がとても心地よかった。(20代Aさん)
- 保育に携わる方々と気軽に話し合える場をつくっていただきとてもありがたい。今までなかなか自園で話し合えなかったことが話せたので、様々な考えを聞くことができ勉強になった。(20代Bさん)
- 5月にも参観し保育を見て感じたことだが、どうしてこんな楽しそうな保育、子供たちの姿が出せるのだろう。私もこんな環境で保育をしたいと思った。(30代Cさん)

次回は、7月31日(水)高松園舎です。